

国語教育相談室

中学校
no.
70

光村図書



特集 鑑賞文を書こう

巻頭
エッセイ
楊逸 日本語と出会う楽しみ

教師力
講座
評論を読む・評論を語る
「聴くといふ」と「三年」

書写
行書の「点画の連続・変化・省略」を
動的・静的な視点から追究しよう

光村図書の書籍

図書館が劇的に変わる



ISBN978-4-89528-475-2



読書力アップ! 学校図書館のつくり方
赤木かん子 著/B5/128頁/定価2,520円

ISBN978-4-89528-668-8



読書力アップ! 学校図書館のつかい方
赤木かん子 著/B5/128頁/定価2,520円



光村図書

中学校 国語教育相談室 通巻No.151 2013(平成25)年1月31日発行 定価126円(税込)
発行人=常田 寛 発行所=光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp
印刷所=株式会社 加藤文明社 デザイン=mint grafix

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。詳しくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書広報部までご連絡ください。

「なあ」

早稲田大学教授
森山卓郎

最近、並んでいて順番を抜かされる
ことがよくある。一昨日は電車で降り
る人を待っていたら後ろの人がすっ
と先に行って座った。先週は立ち位置
が微妙だったのか、レジのところ
でさつと抜かされた。

そんなとき、ちよつといやな気持ち
になるものだ。しかし、権利のための
闘争を繰り広げるほどのでもない。
そこで、自分の心を静めるときに役
に立つのが「なあ」である。心の中で
「このやろ、抜かしやがった！」など
とは思わないようにする。思考に「な
あ」をつけるのだ。「抜かされたなあ」
と思うのだ。そうするとなんだかのん
びりしてきて、「ま、いいか。しかた
ないなあ」という気持ちになるんだな
あ。

文末の「なあ」は、感じていること
を、ちよつと時間的な幅をもって認識
することを表す終助詞である。例えば、
熱いことを知らずに熱い湯船に入っ
たら「熱い！」と思う。その瞬間には「熱
いなあ」とは思わない。一方、あとで
しみじみと思い出すときには「えらい
熱かったなあ」と思う。また、長く湯
船に浸かっていて、しみじみ熱さを感じ
るのなら「熱くなってきたなあ」と
思う。いずれも、「なあ」をつける
と認識に時間をかけることになっている。
いわゆる詠嘆というのはこういうこ
とかなあとも思う。「ああ、綺麗な月
だなあ」「いい浜風だなあ」などとい
うように、時間をかけて認識しな
おすことがまさにしみじみとした詠嘆とい
う情意なのである。

というわけで、「なあ」を使ってい
るような感じたり考えたりしていると、
反射的な怒りも苛立ちも押さえられる。
忙しくても余裕が生まれる。一瞬一瞬
を大切に味わうこともできる。
でも、ふと気づいた。なんだか、思
考の速さが鈍化してくるようでもある。
「電車が来た！」と感じるのではなく、
「電車が来たなあ」と感じる。乗り降
りの混雑を見て「大変だ。乗れなくな
るぞ」ではなく、「混んでいて大変や
なあ。乗れなかったら困るなあ」と思
う。そう思っている内に、目の前が
しゅんとドアが閉まってしまふ。「あ
れれ？乗れへんかったなあ」……これ
では、後ろの人に先に行かれてしま
うのも、当然、なのかなあ。

CONTENTS

探検！言葉の森 19 「なあ」——森山卓郎

巻頭エッセイ 言葉と向き合う 02 日本語と出会う楽しみ——楊 逸

特集 04 鑑賞文を書こう

提言1 「感想文」から「鑑賞文」へ——安居總子

提言2 鑑賞文と想像力——藤森裕治

美術科より 国語科との連携——上野行一

実践事例 私たちの名画鑑賞——堀江佐和子

教えて！美術鑑賞のこと——DIC 川村記念美術館

教師力講座 16 16 評論を読む・評論を語る「聴くということ」（3年）——甲斐利恵子

書写の時間を
楽しく 3 20 行書の「点画の連続・変化・省略」を動的・静的な視点から追究しよう——清水陽一郎

日本語と 出会う 楽しみ

作家

楊逸

言葉と向き合う——まさに日本で半生を過ごした私のことを語っているように思える。と言っても、私は生来怠け者で勉強嫌いな人間なのである。真面目に日本語の勉強に取り組むはずなどもなく、むしろ日本で生活しなければという環境に放り出されたおかげで、ある種無理やり、「言葉と向き合わざるを得ない」ようになったのだった。

初めて日本語学校で勉強した日本語は、今もはっきりと記憶に残っている。——私は日本語を勉強します、であった。「勉強」の二文字を目にした途端、落胆したからだ。同じ意味の中国語は、「我学習日语」となる。つまり「勉強する」は、中国語で学習という語にあたる。むしろ中国語にも「勉強」という単語があるが、それは日本語の「無理する」という意味になる言葉だ。

その瞬間、己の勉強嫌いという「持病」のワケを悟った。——勉強するとはつまり無理をするである、と。それからというものの、できるだけ無理をしないという怠け者根性で、勉強に打ち込めずに、日本語学校を出て、大学も卒業した。幸い

漢字が多く使われている日本、公共の場

に設置された表示板や注意書きなど、中国人であればたとえ日本語のわからない人でも大体の意味を推測することができ

る。そのうえ、ここ数年同じ意味のことを、日本語の下に英語・中国語・韓国語などの外国語でも書かれるようになった。一方で、勉強しなかった私は、これまでもっぱら漢字の字面だよりに、日本語の意を読み取ろうとしてきた。そこで思い込みによって多くの誤解が生まれる。恥ずかしいのだが、つい四年前も、小説の中で「脚」を使ったところ、編集者に間違いであると指摘された。

脚——現代漢語では、足首の下、靴

(ブーツではない普通のもの)を履く部分を指す。私は小説の中で、その部分を表そうとして、思い込みで、あえて「脚」という漢字を使いたいと主張した。

「それなら『足』になりますね」と編集者が言う。「私が言いたいのはこの部分ですよ」。焦るあまり、私は靴を脱いで、足を見せた。「そう、その部分は足で、日本語の『脚』は骨盤から足首までの部分になります」。

そんなやり取りは三十分も続いただろうか、残念なことに、日本の辞書には、「脚」と「足」は、アシと括つていう身体部分を、具体的にどう使い分けるかを明示してないことが多い。権威的な根拠が見当たらないまま、日本人の日本語なのだから、私は妥協した。その後編集者が正しいと判明し、以来女性ファッション誌に躍る「美脚」などの文字を見ると、ついつい逃げたい気持ちになつてしまう。

言葉の面白さは、真剣に向き合うときにやっと伝わってくるものだ。いつか新聞を読んでいたら、あるおじいさんが、

——企業努力で利益を上げる。

——この神社は金運アップのご利益があるとして、事業成功の祈願に多くの人が参拝に訪れています。

右の二つの文、どちらも「利益」という単語が入っているが、読み方が異なる。前者は「リエキ」と読み、辞書では「事業などをして得るもうけ、利潤」と解釈する。

後者は「リヤク」と発音して、「神仏が人間に与えるお恵み、幸運。ご利生。靈験。」あるいは「人や物によって受ける恵み」という表現で解釈されている。

企業努力して求めているのは、あからさまに言えば、つまりお金という形で確認できるようなものうけである。この世の物事が、一旦お金にかかわると、どうしても俗っぽくて不純のイメージをもってしまう。それゆえ寺や神社に、神さまにお願いしに行くときは、利益(リエキ)を——たとえ「金運アップ」をはかりたいという金絡みの目的であっても——使つてはならない。

同じ漢字で書いて、読み方に気を利用させる。——リヤクと読ませたうえ、前に尊敬を表す「ご」をつける。神さまに細心の敬意を払い、リヤク度を高めたいしたたかささえ感じられる。これほど柔軟性をもった言語は、ほかにあるのだろうか。「利益」の一語は、日本文化のそんな繊細な一面も覗かせてくれる。

言葉は文化という畑に根ざしている。その形や動きないし表情、何もかも文化の香りを帯びているのだ。

同じ漢字でも、日本語になると、発音を幾つものってしまうし、それによって、意味や使い方も変わり、表情が俄然豊かになって魅力が増す。中でも最も感心したのは、「利益」という言葉だ。

楊逸

1964年 中国黒竜江省ハルビン生まれ。1987年に留学生として来日し、お茶の水女子大学教育学部を卒業。在日中国人向けの新聞社勤務などを経て、中国語教師となる。2007年『ワンちゃん』(文藝春秋)で文藝界新人賞を受賞。08年に『時が滲む朝』(文藝春秋)で芥川賞を受賞し、日本語以外の言語を母語とする作家として史上初の受賞となり、話題となった。『すき・やぎ』(新潮社)、『獅子頭』(朝日新聞出版)など著書多数。

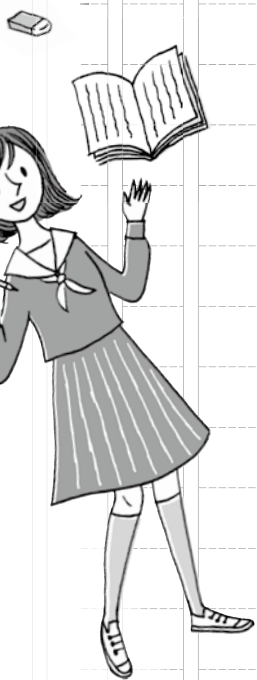




特集



鑑賞文を書くこう



一年三学期に、鑑賞文を書くという教材が位置づけられました。生徒に鑑賞文を書かせる際、どのようなことに気をつけて指導したらよいのでしょうか。今号では、特に美術作品についての鑑賞文を、考えていきたいと思っています。

イラスト…大塚砂織

提言 1

「感想文」から「鑑賞文」へ

自分の思いを述べる「感想文」と違い、「鑑賞文」は、対象となるもののよさを、根拠を明らかにして、論理的に説明しなければなりません。子どもたちは、小学校からよく書いている感想文は得意なのですが、論理的に説明する文章となると、途端に苦手意識を強くしてしまいます。一年一学期に「わかりやすく説明しよう」という教材で、観点を決めて説明するという学習を行っています。一年三学期で鑑賞文を書かせることは、とても有効だと私は思います。

鑑賞文を書く場合、よさを論理的に説明するために、さまざまな観点から、その対象を見ることが大事です。例えば、絵画だったら、「色彩」「構図」「全体の印象」などの観点が挙げられます。それらの観点は、最初から教師が示してしまうのではなく、子どもたちから出させたいものです。堀江佐和子先生の授業（P8-13参照）では、子どもたちに、作品の魅力を付箋紙に書かせ、そこに書かれた言葉を取り出しながら、

観点の説明をしていました。子どもたちどうして作品の魅力について話し合わせ、そこから観点を探していくのはよい方法です。話し合うことで、作品の見方が広がり、さまざまな観点が見つかると思います。

それから、鑑賞文の授業では、ぜひ子どもたちの語彙を広げてほしいですね。例えば、ゴッホの「ひまわり」について、「花びらの描き方がいい」と言った子どもがいたら「他の言い方をしてごらん」と投げかけましょう。すると、「花びらの描き方が細かい」「ひと筆で描いたようだ」など、子どもたちなりに表現してきます。教師がすかさず「『細かい』は、『繊細だ』と言ってもいいかもしれない」「ひと筆で描いたような『筆づかい』がいい、と表現してもいいね」と、子どもたちから引き出した言葉をもとに、新しい言葉を示していくことで語彙が広がります。

また、鑑賞文を書く前に、日常的に描写の練習をしておくといでしょう。授業の初め五分ぐらいで行える簡単な練習でもか

まいません。例えば、校庭に落ちていた葉っぱを見せて、「この葉の色を言葉で表現してごらん」と投げかけたり、子犬の写真を見せて「このかわいらしさを言葉で表現してみよう」と投げかけたり、そのような描写の練習を日頃から積み重ねておくのです。そうすると、鑑賞文を書くときに、さまざまな言葉が子どもたちから出てくると思います。

鑑賞文は、批評文の入りの口とも言えます。上の学年にあがったときに、説得力のある批評文が書けるよう、一年生で鑑賞文を書く練習をしつかり行っておきたいものです。

（談）



やすい ふうこ
安居総子

千葉県生まれ。元岐阜大学教授。前大正大学教授。専門分野は国語教育。著書に、『授業開きの構造』（光村図書）、『伝え合い・学び合い』の時代へ』、『読書生活者を育てる』（以上、東洋館出版社）など多数。光村図書中学校『国語』教科書の編集委員を務める。



特集

鑑賞文を書くこう

鑑賞文と想像力

鑑賞文とは作品から感受される美しさについての説明文である。

すぐれた作品は美しさをもっている。美しさとは、多くの人々をいくたびも感動させる作品の機構である。この機構を経験するために、作品の技法や作家の意図、関連する事実関係を知することは、鑑賞する心のひだを繊細にしてくれる。例えば川合玉堂^{かわいぎょどう}の風景画には生活する人々の姿が必ず描き込まれているという事実を知っていれば、水墨画で表された厳冬の農村風景へのまなざしがあたたかくなるだろう。あるいはイエス・キリストに教化される前のマグダラのマリアが娼婦だったという逸話を知っていれば、キリスト教の宗教画において聖人として描かれる彼女を見る際の態度に奥行きが生まれるだろう。このように、作品にかかわる事柄について知識をたくわえておくことは、必要とは言わないまでも有効と言うべきである。

しかし、こうした知識を駆使して作品世界がどう読み解けるかを述べる作業を「鑑

賞」とは言わない。それは「絵解き」である。「鑑賞」という行為は、作品世界が自分にどう見えるのか、香るのか、聞こえてくるのか、そして感情をふるわせるのかを、完全に自分の内的な出来事として感じ取ることである。例えば「ヴァージナルの前に立つ女」（フェルメール）を見て、女性が身につけている金色のドレスのひだから乳酸菌飲料に似た香りを覚え、恋をしたいという感情が動き出す。あるいは、デヴィッド・ホックニーの風景画に描かれたみどりの森を見るたびに、精神の疲労が癒やされ、元気がわいてくる。そういう体験が「鑑賞」である。

「鑑賞文」とは、このような、作品にふれた自己の内的な出来事を言葉に焼き付けようとして制作される文章である。そこに示される体験的事実は、何人も不可侵である。前述の知識をどれだけ有するかで「鑑賞文」に優劣をつけることは、あまり意味がない。問題となるのは、言葉にならない出来事を「経験」として言語化するための

国語科との連携

美術科では、絵画や彫刻などの美術作品を鑑賞し、感じ取ったことや考えたことを話し合ったり、鑑賞文を書いたりする授業が行われています。また、国語科でも美術に関する評論の文章を読んだり、鑑賞文を書いたりする授業が行われています。

二つの教科で美術作品の鑑賞に関する授業があるのですが、国語科と美術科の関係をどのように捉えればよいのでしょうか。

美術科では「表現」と「鑑賞」の学習があります。が「表現」の学習と同様に「鑑賞」の学習も主体的で創造的な学習と位置づけられています。感じ取ったことや考えたことをもとに、絵や彫刻などを創り出すのが「表現」の学習であり、作品との対話を重ね、思いを巡らしながら自分の中に新しい価値や見方を創り出すのが「鑑賞」の学習なのです。

したがって、美術科における鑑賞の学習では、「自分はどうのように見るか」ということが大切になります。

自分の中に作品に対する価値を明確にも

つこと、そのような意識を価値意識と呼び、

自分の価値意識をもって批評し合う学習を通して見方や感じ方を広げ、美術を愛好する心情を育てることや感性を豊かにすること、美術文化についての理解を深めることなどを美術科では目ざしているのです。

さて、批評し合う鑑賞の学習では、思いや考えを言語化する必要があります。言葉にすることによって漠然と見ていたことが整理され、思いや考えの根拠が明確になるのです。また、話し合いを通して他者の感じ方や考え方を知ることができ、見方の多様性に気づくとともに、自分の見方をより深めることができるのです。

価値意識を高めるために欠かせない言語活動は、具体的な根拠を述べたり、文章の組み立てを考えて書いたりすることなど、国語科の学習によってその質を高めることが期待できます。

また、美術科の学習によって生徒は価値意識をもって鑑賞することを学び、それは国語科での鑑賞文の学習に反映されること

想像力と創造力を、いかに身につけるかとい

うことである。それは、作品から感受された「美しさ」が、自身に何をもたらしたか説明する力を育成することである。ただし、説明すべき対象は作品の機構ではない。鑑賞する主体が感じた「美しさ」についての体験談である。

鑑賞文を書くことの根源的なねらいは、生徒が美的体験をし、それを言語的記憶として蓄積することにあると言えるだろう。もとよりその範は、教師が示さねばならぬ。



ふじもりゆうじ
藤森裕治

長野県生まれ。信州大学教育学部教授。教育学博士。専門は国語科教育学（授業研究）、日本民俗学。NHKラジオ高校講座講師。著書に『国語科授業研究の深層―予測不可能事象と授業システム―』（東洋館出版社）など。光村図書中学校『国語』教科書の編集委員を務める。



うえの こういち
上野行一

大阪府生まれ。帝京科学大学こども学部教授。対話による意味生成的な美術鑑賞教育の開発を研究テーマにしている。美術による学び研究会会長。NHK教育テレビ番組委員高校講座『美術』監修。著書に『私の中の自由な美術』（光村図書）など。光村図書中学校『美術』教科書著作者。

二時間目

作品の魅力を語る
観点を知ろう

授業の初めに、前時に集めた付箋紙の一覧(※3)を配布した。その後、教科書P199を見ながら、「鑑賞文を書くときの観点」を確認していった。教科書には、「印象」「構成」「色彩」などの観点が表示されている。これらの観点をただ説明するのではなく、「Aさんは、ゴッホの『ひまわり』について、『黄色とオレンジが強調されている』と書いていますが、これは『色彩』という観点だね」というように、生徒の付箋に書かれた言葉とつなげて説明するようにした。

そして、同じ絵を選んだ人によるグループ編成を発表(グループは最大四人で、教師があらかじめ決めておく)。最終的に選んだ絵のよさをグループごとに発表してもらうことを告げた。本時では、まず自分が選んだ絵の魅力伝えるときに、どんな観点が考えられるか、できるだけたくさん挙げさせた。

次時では、グループに分かれて、発表の準備をする。

三時間目

作品の魅力について
書くころ

最初に、全員で「観点を決め、作品のよさを具体的に説明する練習」を行った。教科書P203に掲載されている、ゴッホの「夜のカフェテラス」を見て、「色づかい」「構図」「星の描き方」などの観点を挙げ、「空の濃い青色とカフェの屋根の黄色という、対照的な色づかいが美しい」などと、具体的に説明をする練習をした。

その後、グループに分かれ、どの観点で



へ私たちの名画鑑賞

友だちの選んだ作品その魅力

1209 ① 見るとさうな感じ ② 参しえう	1207 ① 周りの景色が不思議 ② 細かいところまで描いて ③ 古い中国な感じ ④ 人をあてて描く	1206 ① 見るとさうな感じ ② 参しえう	1249 ① 空の境がうろたふ ② 太陽が海に映ってきれい ③ 背景の景色がうまい	1247 ① なにかさういって見ると ② ひまわりの花を強調 ③ 周りの景色がうまい	1201 ① リアル ② よかるとい感じ	1248 ① 女の人が印象的 ② 背景色がうまい	1249 ① 立派に描いてひまわりがきれい ② 背景色がうまい	1238 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1235 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1234 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1233 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1232 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1231 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1230 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1229 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1228 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1227 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1226 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1225 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1224 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1223 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1222 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1221 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1220 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1219 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1218 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1217 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1216 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1215 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1214 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1213 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1212 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1211 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1210 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい	1209 ① 自然の感じ ② 色とりどりでうまい
--	--	--	---	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※3 付箋紙の一覧
1時間目に書いた付箋紙を全員分集めてコピーしたもの。①～⑫は、選んだ絵画の番号である。

ミニ鑑賞文 ……こんな感じで

ルノワール 作

ムーランドラギャレット の魅力 (氏名 堀江田 佐和子)

表現メモ

・ たくさんの音
・ 音楽
・ 音楽ダンス
・ ガラスの食器
・ カチャカチャ
・ ダンスする人々
・ 楽しげな
・ ざわめき

この絵の魅力は、絵から聞こえてくるたくさんの音だ。	中央の二人の女性は背中を向けた男性と談笑している。後ろの人たちは音楽に合わせてダンスをしている。右側の男性のテーブルにはガラスの食器があり、カチャカチャという音も聞こえるようだ。	この絵からは、ダンスする人々の楽しげなざわめきが聞こえる。
---------------------------	---	-------------------------------

一段落目
▼ 着目した観点
この絵の魅力は、この絵は、音がすばらしい。

二段落目
▼ 着目した観点から絵を説明する。(気づいた小さな発見)
には、音が描かれている。に着目すると、一に気づく。

三段落目
▼ まとめ
(一段落目をもう一度別な表現で) このように、この絵からは、作者は、たしかに、見る人に、

※4 150字の「ミニ鑑賞文」の例
このような例文を示すと、生徒はどのような文章を書けばよいのか、捉えやすくなる。

●四・五時間目

作品の魅力を伝えよう

グループに分かれ、発表する観点を、短冊形の画用紙に書かせた。これは、発表時に黒板へ貼る。

その後、前時で書いた百五十十字の「ミニ鑑賞文」をもとに、発表のリハーサルを行う。発表のモデル例(左参照)を示したワークシートを配布し、それにならって、練習するよう促した。

* * *

【発表のモデル例】

Aさん 私たちのグループは、ルノワール作の「ムーラン・ド・ラ・ギャレット」を鑑賞しました。鑑賞した観点は、「絵から聞こえてくる音」「印象」「色彩」です(グループで決めた観点を紹介する)。では、まず、「絵から聞こえてくる音」について、Bさん、発表をお願いします(最初の発表者を紹介する)。

Bさん この絵の魅力は、「絵から聞こえてくる音」です。…(中略)…次に「色

彩」についてです。発表はCさんです。

Cさん この絵は「色彩」がとても素晴らしいです。…(中略)…続いて、Dさんどうぞ。

(以下、同様に発表したら、次の発表者を紹介する。)

以上で、私たちの発表を終わります。

* * *

十分ほど練習させた後、いよいよ発表に移る。「コメントシート」を配布し、「発表を聞いた後、ひと言コメントを記入しましょう。コメントは発表した人へのプレゼントだよ。発表のよいところを褒めるような温かいコメントがいいですね」と話した。発表が一方通行にならないように、一つのグループが終わるたび、数名に書いたコメントを発表させた。

思いがけない観点で説明するグループの発表に「おおつ」と、どよめいたり、笑いが起こったり、発表はとても盛り上がった。普段は国語が苦手でおとなしい生徒も、生き生きと発表していた。

なかでも、うまくまとめていたグループの「ミニ鑑賞文」を次ページに示す。

ている。また、背中をまるめて、寒さをこらえている様子も伝わってくる。

この絵は、人物の描き方がとても魅力的でおもしろい作品だ。

▼雪の積もり方(Tさん)

この絵は、なんといっても「雪の積もり方」が魅力的だ。

手前を歩いている三人の人物の足あとに土が見えない。さらに、屋根がなめになっているにもかかわらず、多くの雪が屋根に積もっているように見える。

このことから、長い間降っていたのか、たくさん雪が積もっている描き方なのかわかる。

▼色づかい(Wさん)

この絵の魅力は、白黒で描かれている空や木の色づかいだ。

天と地の境目は灰色で表され、静かな夜を連想させる。また、木の色は黒だが、白色の濃淡を使うことで、細かな雪を表している。

この絵からは、作者の心づかいが感じられる。色の小さな違いを使って、幻想的な冬を連想させていて、魅力的だ。



【発表を聞いた生徒からのコメント】

「雪の積もり方」というのが、なるほどなあと思いました。雪が長い時間降っていたことが、説明でよくわかりました。

●おわりに

授業の最後には、次のように生徒に話した。「この単元では、みんながいろいろな観点を示してくれました。『色づかい』と言われると、色に注目して絵を見るようになるし、『人の姿勢』と言われると、描かれている人の姿勢が気になってくる。観点を示されると、今まで見えなかったものが見えるようになってきますね。観点は『ものを見る窓』かもしれません」。

本単元では、対象の魅力を伝えるための観点について話し合い、ふさわしい語彙を選び、文章を書いて発表した。この経験は、幅広いものの見方や、豊かな表現力を養うことにつながっていくだろう。今回は、時間の都合で国語科のみで単元を展開していたが、次回は、美術科と連携して授業を行ってみたい。



東海道五十三次（保永堂版） 蒲原夜之雪
歌川広重
紙・木版・色摺 24.7 × 37.1cm 1833年頃 静岡県立美術館蔵

「教えて！美術鑑賞のこと」

国語の先生方の美術鑑賞に関するさまざまな疑問を、鑑賞教育に力を入れているDIC川村記念美術館の学芸部の方にお聞きしました。
(答えてくれたのは、学芸課長の鈴木尊志^{たかし}さんです。)



← どんな作品を鑑賞させたらいいの？

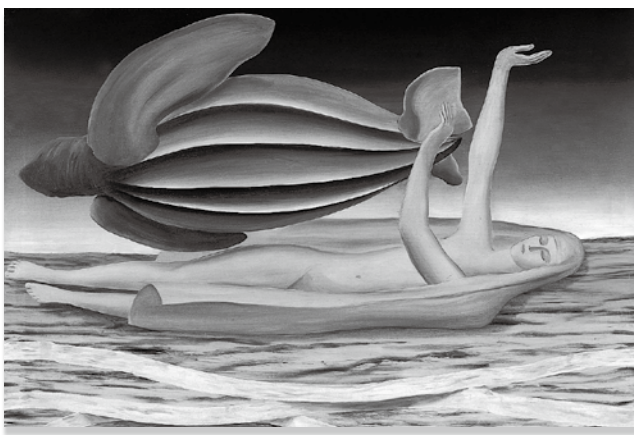
——鑑賞文を書かせる際、生徒たちにどのような作品を鑑賞させたらよいのでしょうか。

物語性のある作品のほうが、言葉で表現しやすいので、鑑賞文を書くときに適していると思います。当館の所蔵作品でいえば、シャガール(※1)の「ダヴィデ王の夢」は、いろいろな人物が描かれているため、子どもたちはそこから想像をめぐらせ、鑑賞の授業がとても盛り上がります。シャガールの作品は物語性がありますし、色彩も豊かなので、中学生が鑑賞文を書くのに適しているかもしれませんね。また、当館で所蔵しているマグリット(※2)の「冒険の衣服」も、「どんな場面なんだろう」と不思議に

感じ、さまざまな言葉が出てきます。マグリットの作品は不思議なものが多いので、子どもたちは引きつけられると思いますよ。逆に、ポロック(※3)のような抽象画は、見たときに圧倒されますが、そのよさを言葉で表現することは、中学生には難しいかもしれません。

——教科書(二年 P 202―203)に掲載されている作品以外に、おすすめのものがあれば教えてください。

教科書には、ゴッホの「夜のカフェテラス」が掲載されていますが、「アルルの跳ね橋」「カラスのいる麦畑」などの風景画もよいと思います。ゴッホはその土地の空気、光、風の流れを見事に描ききった、類まれな画家です。ゴッホの風景画を見れば、子どもたちから、いろいろな言葉が出てくることでしょう。



冒険の衣服
ルネ・マグリット
キャンヴァス・油彩 80 × 120.2cm 1926年

日本画では、長谷川等伯^{とうはく}の「松林図」(※4)をおすすめします。墨一色の中に、風の動きや松林の空気を感じ取ることができる傑作です。中学生にもなれば、この作品のよさを言葉で表現できるのではないでしょう

うか。また、北斎や広重の浮世絵は、色彩や構図が西洋の流れとはまったく異なるので、西洋画と比較させながら子どもたちに見せたいですね。

それから私は、ゼビレオナルド・ダ・ヴィンチのデッサンを鑑賞してほしいと思っています。ダ・ヴィンチは、人間、鳥、水の流れなど、自然をつぶさに観察してデッサンをし、そこから自然の原理や法則を見つけていきました。ダ・ヴィンチの観察力のすばらしさは、きっと中学生の感性にも響くのではないかと思います。

← どうやって鑑賞させるの？

——それでは、それらの作品をどうやって鑑賞させたらよいのでしょうか。先生が心がけることなどがあれば教えてください。

最初は、作家名やタイトルは見せずに、「その作品を見て純粹にどう感じたか」ということを、まず言葉で表現させることが

大事だと思います。「あたたかい」とか「悲しい感じがする」とか、拙^{つた}くてもよいので、感じたままの言葉を出させるんです。

——その言葉から、「どうしてそう感じたの?」「他の言葉で言い表してみて」と先生が投げかければ、鑑賞文を書くための、より具体的な言葉が引き出していけそうですね。

そのときに先生が気をつけなければならないのは、どんな言葉が出てきても「絶対に否定しないこと」です。そもそも作品の見方に正解はありません。それぞれの視点で鑑賞すればいいんです。子どもたちが、互いに自分の見方を出し合って、友達に共感したり、意外な見方に驚いたりして、コミュニケーションをとりながら、鑑賞を楽しむことが大事。

先生の役割は、子どもたちが心を開いて話せる雰囲気をつくり、彼らの言葉を整理することなので、美術の専門知識がない先生でも、子どもたちに美術作品を鑑賞させることはできます。

今回、国語の教科書に「鑑賞文を書く」という教材が位置づけられたそうですが、鑑賞文を書く前提で作品を見ると、おのずと思索的になりますし、「書く」という行為で、自己との対話が深まるでしょう。鑑



DIC 川村記念美術館 (千葉県佐倉市)
20世紀美術を中心とした多彩なコレクションを、豊かな自然の中でゆったりと鑑賞することができる美術館。1998年より、主に小・中学生を対象とした対話型の鑑賞教育プログラム「美術教育サポート」を行っている。

- ※1 シャガール (Marc Chagall 1887-1985)
ロシアに生まれ、フランスで活躍した画家。故郷への追想、妻への愛などをモチーフに、詩情あふれる幻想的画風で知られる。
- ※2 マグリット (René Magritte 1898-1967)
ベルギーの画家。シュルレアリスム運動に参加。一見無関係と思える日常的なイメージを組み合わせ、不可思議な幻想空間を描いた。
- ※3 ポロック (Jackson Pollock 1912-1956)
アメリカの画家。抽象表現主義の代表的な存在の一人。彼の画法は「アクション・ペインティング」とも呼ばれた。
- ※4 「松林図」(16世紀頃) 安土桃山時代の絵師、長谷川等伯が霨に包まれた松林を屏風画として描いたもの。国宝。東京国立博物館所蔵。

評論を読む・評論を語る

使用教材：「聴くということ」（三年）

東京都港区立赤坂中学校教諭
甲斐利恵子



今回は、三年三学期の教材「聴くということ」を使った授業をご紹介します。

この教材は、哲学者・鷺田清一さんが、人の話を「聴く」という日常生活でも大切なことについて述べた、魅力的な評論の文章です。私は鷺田さんのものの見方や考え方を、子どもたちにつかり読み取ってほしいと思い、「評論を読む・評論を語る」という単元を設定しました。

第一時 学習の流れと目標の確認 筆者の価値観を読み取る

初めに、一学期に学習した「批評」の言葉のための（竹田青嗣）の話を、子どもたちにしました。哲学者である竹田さんの文章を読んで、「なるほどなあ」とみんなで納得したことを思い出させ、今回は同じ哲学者である鷺田さんが書いた評論の文章を読んでいくことを告げました。

私は、「評論を読む」ためには、まず「筆者の価値観を読み取る」ことが大事だと考えています。しかし、子どもたちの中には、筆者の価値観を捉える前に、自分の価値観で批判的に読んでしまう子があります。そのため、教材文から、筆者の価値観を定義つけて付箋紙に書き出させることにしました。そうすることで、主観を交えずに筆

者の価値観を読み取らせることができると考えたからです。

全文を音読する前に、付箋紙を配布します。「鷺田さんがどんな価値観をもっているのか考えながら読んでいきましょう。板書にも示したように、価値観が書かれている部分を定義つけしながら、付箋に書き出していつてください。『はーである』と、教科書の文章をそのまま書き出してもいいですし、自分の言葉で書いてもいいです。そう話し、教材文を音読しました。

子どもたちは真剣に耳を傾けていました。音読を聞いた後、付箋紙に「聴く」ということは、受動的な行為ではない」「人は語るとき、聴く人を求めている」など、筆者の価値観がわかる部分を書き出していきました。それらの付箋紙はB5の用紙に貼り、提出させました。

聴くということ

——評論を読む—— 評論を語る——

1. 文章を読む
2. 筆者の価値観を探る

ものの見方・考え方をとらえる

☆その人はどんな価値観をもっているか

著者の価値観を、ふせんに書く。

聴くということは

人はい

価値観

「はーである」
定義づけしてみる

▲第1時の板書

第二時 筆者の価値観について、 自分の考えをまとめる

「評論を読む」ためには、筆者の価値観を読み取るだけでなく、それについて自分はどう思うのかということまで考えさせなければいけません。本時では、前時で読み取った筆者の価値観について、自分はどう考えるのかを、文章にまとめていきます。「聴くということ」では、筆者の価値観が

抽象的に書かれているので、自分の具体的な体験と結び付け、筆者の価値観についてどう思うのかまとめていくよう伝えました。前時で集めた付箋紙の中で、筆者の価値観をうまく定義づけているものを十六枚選んで一覧（左参照）にし、配布しました。1～16の中からテーマを一つ選び、自分の体験を交えて、四百字以内で考えをまとめていきます。大体の子どもが、二十分ほどで文章を書きあげていました。うまく書けない子には、机間指導で書きだしを私

1. 聴くということは、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめることである。	2. 人は、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめることである。	3. 人は、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめることである。	4. 人は、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめることである。	5. 人は、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめることである。	6. 人は、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめることである。
7. 人は、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめることである。	8. 人は、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめることである。	9. 人は、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめることである。	10. 人は、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめることである。	11. 人は、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめることである。	12. 人は、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめることである。
13. 人は、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめることである。	14. 人は、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめることである。	15. 人は、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめることである。	16. 人は、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめることである。	17. 人は、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめることである。	18. 人は、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめることである。

評論を読む
——自分の体験から——

▲生徒から集めた付箋の中から16枚を選び、一覧にして配布した。

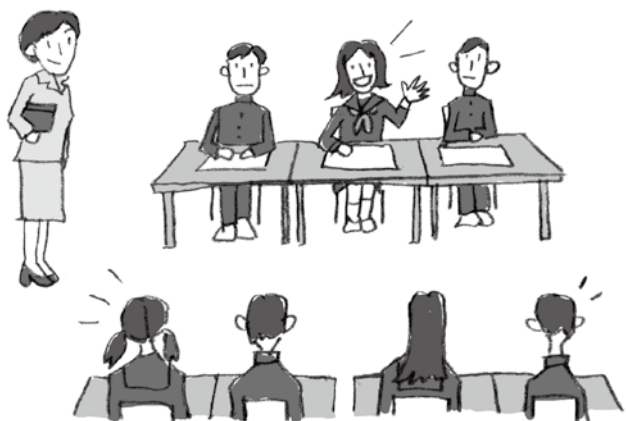


前時にまとめた文章を集めて冊子にし、配布しました。1～16のテーマごとに発表をしていきます。発表はシンポジウムの形式をとることにしました。シンポジウムはあるテーマについて、複数の論者が意見を述べ、聴衆は質疑応答を通してテーマに対する考えを広げるといふ話し合いの方法です。今回は、同じテーマを複数の子どもが選んでいたことと、みんなで話し合って知見を広めていく楽しさを味わってほしいと考えたため、この方法をとりました。

テーマごとに子どもたちが前に出て、発表をします。聴衆側は、質問したい箇所をマイカーで引きながら聞き、発表が終わったら質問します。

シンポジウムでは、発表に対してポンポンと質問が出されるというより、発表が終わると、一つ質問が出て、それについて全員がじっくりと考えるといった様子が見られました。子どもたちからは、「話すより聴くほうが大変なんだね」「聴くことは、お休みじゃないんだ」「うーん、聴くことは難しいなあ」などの感想が出されました。

第三～五時 シンポジウム形式で発表する 発表を聞いて、自分の考えを深める



教師が司会を務め、シンポジウムを進行していく。

普段何気なく行っている「聴く」という行為をさまざまな角度から見ることができ、「聴く」ことがとても奥深いことを、みんなで実感することができたと思います。

すべての発表が終わった後、「あとがき」として、授業の感想を書かせました。その一部をご紹介します。

「『聴くということ』について考えさせられた」「友達の発表を聞いて、『そんな考え方があるんだ』と驚いた」などの感想が多く見られ、シンポジウムを通して、自分の見方や考え方を広げることができたようです。

教材文に書かれた抽象的な内容を、自分の具体的な体験と照らし合わせて吟味するということは、三年生だからできることです。「聴くということ」は、三年の最後にふさわしい魅力的な教材だと、授業をしてみて改めて感じることができました。

- ・聴くということを、さまざまな視点で見ることができました。
- ・友達の考えに共感したり、考えさせられたり、とても楽しい時間でした。
- ・自分の考えが深まったと思いました。
- ・みんなが実体験をふまえて発表してくれたので、わかりやすかったです。
- ・たくさんの見方や考え方を知ることができ、クラスのみんなに感謝したいです。

2.

人	口	相	手	が	自	分	に	関	心	が	あ	る	の	か	ら	い	は		
そ	の	聴	き	方	で	す	ぐ	に	わ	か	る	も	の	が	あ	る	は		
私	が	家	に	い	る	時	、	親	が	日	の	南	に	い	る	こ	の		
日	の	聲	し	か	つ	た	話	や	、	嵐	の	話	を	始	め	る	の		
日	の	話	な	ら	、	若	干	興	味	あ	り	け	に	、	受	験	関	係	は
こ	う	真	面	に	、	嵐	な	ら	興	味	無	し	と	い	、	た	様	子	で
聴	い	て	い	る	。														
書	類	に	何	か	記	入	し	て	い	る	こ	ま	な	ら	、	相	手	と	
え	返	。て	こ	の	い	。													
歳	の	話	は	、	科	理	中	で	も	、	ど	ん	な	に	暇	さ	う	に	し
て	い	て	も	、	と	に	か	く	興	味	な	さ	う	に	適	当	に	相	
腿	を	打	っ	て	い	る	。												
と	と	す	ぐ	に	逃	げ	て	い	ま	う	。								
話	し	手	づ	つ	話	に	興	味	や	関	心	が	な	く	て	も	聴	き	手
は	話	を	聞	い	て	い	る	。											
き	に	相	手	と	打	っ	た	り	、	質	問	も	な	い	。				
な	ら	相	手	で	話	し	手	に	は	関	心	の	有	無	が	わ	か	つ	て
ま	う	っ	た	。															

※4 (20×20) このまな板は同版は同生版を使用しております。

が書いたり、言葉を補ったりして、フォローしました。

左に示したのは、「2. 人は、相手が自分に関心があるのかどう

かは、その聴き方ですぐにわかるものである。」と「3. 人は、相手に関心がないと見えないものがある。」で書いた子の文章です。このように、多くの子どもたちが、

自分の体験に照らして、筆者の価値観について自分はどう思うのか書くことができました。

次時では、書いた文章を発表させます。

3.

人	は	、	相	手	に	関	心	が	な	い	と	見	え	な	い	も	の	が	あ
る	も	の	で	あ	る	。													
初	め	て	見	る	集	団	の	人	々	は	、	大	体	み	ん	な	同	じ	
顔	に	見	え	て	し	ま	う	。											
部	活	の	大	会	な	ど	他	校	が	集	ま	る	所	へ	行	く	と	同	
じ	よう	な	顔	が	た	く	さん	あ	る	。									
じ	顔	な	わ	け	は	無	く	、	し	ば	ら	く	じ	つ	と	見	て	い	れ
ば	へ	の	へ	の	も	へ	じ	顔	が	人	間	の	顔	へ	と	進	化	す	る
こ	れ	は	私	が	そ	の	人	に	関	心	を	持	っ	た	こ	と	に	よ	り
起	き	た	の	で	あ	る	。												
へ	の	へ	の	も	へ	じ	顔	と	か	か	れ	た	顔	の	ま	ま	で	あ	る
こ	の	こ	と	は	、	聴	く	こ	と	に	も	通	じ	て	い	る	。		
手	が	興	味	の	無	い	話	、	た	と	え	自	慢	話	を	し	て	い	て
も	「こ	の	人	は	ど	れ	だ	け	私	を	イ	ラ	ッ	と	さ	せ	られ		
る	だ	う	う	？」	と	思	う	だ	け	で	、	相	手	に	関	心	を	持	
つ	こ	と	に	な	る	。													
相	手	の	話	、	相	手	が	伝	え	た	こ	と	は	相	手	に	関	心	を
向	け	れ	ば	、	新	た	に	見	え	て	く	ん	も	の	が	あ	る	の	だ

※4 (20×20) このまな板は同版は同生版を使用しております。

3

行書の「点画の連続・変化・省略」を動的・静的な視点から追究しよう(二年)

上越教育大学附属中学校指導教諭 清水陽一郎

さまざまな実践をされている清水先生の連載(全三回)です。最終回である今号では、ICT機器を活用して、行書の特徴を学ぶ授業をご紹介します。



清水陽一郎

1970年生まれ。東京学芸大学書道科卒業後、新潟県中学校教諭を経て、上越教育大学大学院にて書写指導について研究。現在、上越教育大学附属中学校指導教諭。全国大学書写道教育学会会員。上越国語教育連絡協議会書写委員。

1 題材の目標

- ・行書の「点画の連続・変化・省略」に興味・関心をもつ。
- ・動的な視点から「点画の変化・省略」を捉え、運筆練習を繰り返し、技能の向上を図る。
- ・課題語句における審査観点を動的に捉え、運筆の過程を静的視点と動的視点を結び付けて思考し、理解する。

2 学習の流れ(全三時間)

- 今年の書き初めの課題(「白銀の峰」)について、五つの審査観点を調べる。
- 「点画の連続・変化・省略」について、教科書を確認する。
- 「白銀の峰」の運筆を動画で視聴し、「点画の連続・変化・省略」がどういう運筆によって表れるかを知る。
- 動画で運筆(動的視点)を、教材

文字で字形(静的視点)を、それぞれ確認し、結び付けながら練習する。

1 課題の審査観点を確認しよう

一年ぶりの書き初めに、生徒は「うまく書けるかな」と、期待と不安の入り交じった表情を見せていました。

今回は、学年(三学級)を一斉に指導するために、校内のICT機器を活用しました。全体指導はインタラクティブホ



▲IWBで全体への指導を行った。教師の説明を聞く生徒たち。

ワイトボード(※1)以下「IWB」を使って放送形式で行いました。その後、個別練習の場を設定し、生徒がタブレットPC(※2)を活用して学習を進め、教師三名が適宜巡回しながら個別支援を進めるようにしました。この形式で授業を行うことで、書写指導に不安をもつ教師も安心して指導することができそうです。

今回書く行書の「白銀の峰」は、地域で毎年行われている書き初め会(上国連書写技能認定書き初め会)の課題です。この書き初め会では、五つの審査観点があらかじめ示されていて、生徒は審査観点に○が付くように、練習を重ねます。○の数に応じて「会長賞」「優秀」「優

「良」「佳」の認定証が渡され、「会長賞」の中でも特に優れている作品が「二席」「三席」「三席」に選ばれます。地域の生徒は、認定を楽しみに練習に励みます。

五つの審査観点(①白：全体の連続感

②銀：へんの省略と連続
③峰：へんの変化と呼応

④峰：へんをつくりのつり合い
⑤全体のまとまり

り)を生徒たちに知らせると、「具体的にどのよう書きたい」という声が多くなりました。そこで、予想される書字例における○と△の基準を明確にした自作のプリントを生徒に配付しました(下参照)。私の観点的説明を聞き、生徒は「こう書くと○になるのか」と口にしなが、基準が書かれたプリントに見入っていました。しかし、プリントに書かれた○と△の基準は、書かれた文字に表れる特徴に焦点を当てているため、どのよう

な運筆で書けばよいのかまではわかりません。

そこで、生徒が動的視点から行書の特徴を捉え、静的視点との統合を図ることができるように、実際に書いている様子

上国連書き初め会 中2「白銀の峰」 審査観点ごとのポイント	
No.	審査観点
①	白 全体の連続感
②	銀 へんの省略と連続
③	峰 へんの変化と呼応
④	峰 へんをつくりのつり合い
⑤	全体のまとまり

※1 インタラクティブホワイトボード
パソコン画面を映写したボード上で書き込みをしたり、その内容を保存したり、パソコン操作をすることができる。
※2 タブレットPC
薄い板状のパソコンで、画面上で操作したり書き込んだりできる。

3 学習の評価

今回の学習では、提出された作品を審査観点に従って審査し、評価しました。評価結果と、○が五つ付いた生徒の作品の一部を以下に示します。

作品における○の数は二〜四個の生徒

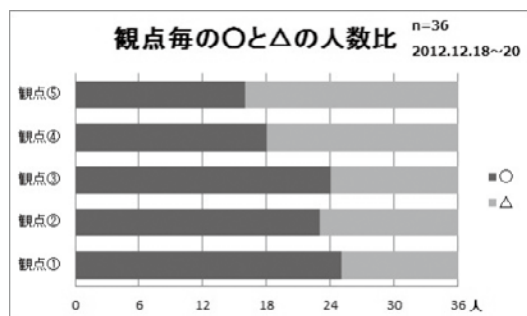
んの省略と連続」の達成度が低いことを見取ることができました。特に、五〜八画目を回転させるように書く省略の運筆が難しいようです。そこで、平仮名の「ま」「ほ」の結びのように、「三角結び」を書くような感覚で五〜八画目を書くように指導しました。

三時間目は紙面に対して四つの文字をバランスよく配置することや、名前を行書で書くことに重点を置いて練習しました。四つの文字を紙面にバランスよく収めるために、「の」を小さめに書いて、その分「峰」を少し上げて書いて最終画が伸びやかになるようにすると、見栄えがよいことに気づいた生徒は、微調整を繰り返していました。

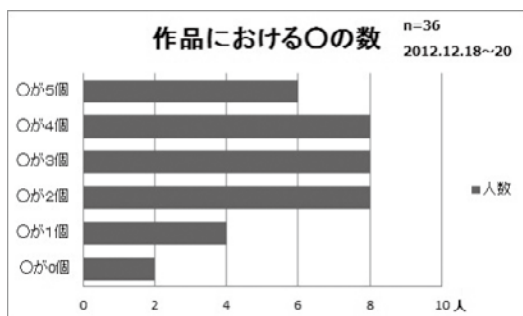
最後に、作品の出来映えについて互いに審査員になったつもりで相互評価を行い、作品を一枚提出させました。



◀○が5つ付いた生徒作品。



▲表2



▲表1



▲動画の一場面。
この映像は、動画投稿サイト (You Tube) にもアップされている。
([「上国連書き初め会」で検索。])

を撮影した動画をIWBで見せて、プリントに書かれた○の基準が、どのように書かれているかを観察する場を設定しました。

私は、生徒に「点画と点画の間の動きに注目して動画を見るように」という指示を出しました。動画を見た生徒たちから、「墨継ぎをしていない」「硯で筆先を直していない」「ひと筆書きみたい」といった声があちこちから上がりました。

その後、生徒に「楷書と行書の運筆で違うのはどのようなところですか」という発問をしました。生徒はしばらく考えて、「行書は流れるように書いている」「トン・スー・トンじゃない」などの気づきを挙げました。

そこで、七月に行った行書の学習 (中学校国語教育相談室69号) 参照) で確認

した「楷書と行書の運筆の違い」を教科書の内容とともに再度提示しました。

▼楷書は「トン・スー・トン」と書き、ストップ&ゴーがあるが、行書は止める部分を止めずに速度を落として書く。

▼行書は穂先をほとんど持ち上げずに書く。浮き上がりが少ないので、結果的に連続痕が紙に残る。

▼行書はなめらかに書字運動をし、運筆距離が短くなるために、点画の形が変化・省略したり筆順が変化したりすることがある。

そして、よい運筆によってよい字が書けることや、動画で運筆を観察し、書けた字を教材文字と比較して運筆の良し悪しを評価しながら練習を進めることを伝えました。

② 動画と教材文字を効果的に使って行書を練習しよう

いよいよ練習に入ります。一時間目は残り二十分ほどでしたので、生徒は動画を連続再生しながら行書らしいなめらかな運筆に慣れることに重点を置いて練習

しました。当校の単元配列では、書写は学期末に集中的に指導するため、生徒は四か月ぶりに持つ筆に苦勞しながらも、勘を取り戻す時間は一年生と比較すると明らかに短くなっていました。

二時間目は、「白銀の峰」の四つの文字それぞれの審査観点到○が付くように、観点を意識して書くことに重点を置いて練習しました。机間指導をしながら審査観点の達成度を見て回ると、「②銀…へ

▶運筆のしかたを動画で確認しながら書いていく。



光村の
国語の
ワーク

光村の国語のワーク
1
光村教育出版

光村の国語のワーク
2
光村教育出版

光村の国語のワーク
3
光村教育出版

1～3年 各1冊
B5判 136ページ 4色刷り
別冊縮刷版解答つき・教師用あしらい
教師用にCD-ROMつき

流水配分のイメージ

流水配分とは、各事業年度の売上高を、事業年度の経過に伴って、均等に配分して、利益を計算する方法です。

例として、事業年度の売上高が1000万円、事業年度の経過に伴って、均等に配分して、利益を計算する方法です。

事業年度の経過に伴って、均等に配分して、利益を計算する方法です。

流水配分の手順

1. 事業年度の売上高を、事業年度の経過に伴って、均等に配分して、利益を計算する方法です。

2. 事業年度の経過に伴って、均等に配分して、利益を計算する方法です。

3. 事業年度の経過に伴って、均等に配分して、利益を計算する方法です。

流水配分の手順

1. 事業年度の売上高を、事業年度の経過に伴って、均等に配分して、利益を計算する方法です。

2. 事業年度の経過に伴って、均等に配分して、利益を計算する方法です。

3. 事業年度の経過に伴って、均等に配分して、利益を計算する方法です。

流水配分の手順

1. 事業年度の売上高を、事業年度の経過に伴って、均等に配分して、利益を計算する方法です。

2. 事業年度の経過に伴って、均等に配分して、利益を計算する方法です。

3. 事業年度の経過に伴って、均等に配分して、利益を計算する方法です。

- ### 問題解決の過程

① 問題の発見と設定

② 問題の分析

③ 解決策の立案

④ 解決策の実行

⑤ 結果の評価

問題解決の過程

① 問題の発見と設定

② 問題の分析

③ 解決策の立案

④ 解決策の実行

⑤ 結果の評価

① 問題の発見と設定

② 問題の分析

③ 解決策の立案

④ 解決策の実行

⑤ 結果の評価

① 問題の発見と設定

② 問題の分析

③ 解決策の立案

④ 解決策の実行

⑤ 結果の評価

① 問題の発見と設定

② 問題の分析

③ 解決策の立案

④ 解決策の実行

⑤ 結果の評価

① 問題の発見と設定

② 問題の分析

③ 解決策の立案

④ 解決策の実行

⑤ 結果の評価

-

漢字

級別 字形のポイント 新常用漢字 2136

● 平仮名字で字形のポイントが確認できる

常用漢字の読みかぎが練習できる
「読みかぎ」して読みかえる
声に聞こえる音読み・読みか
漢字検定の練習のとき

中学
 硬筆練習帳
 一・二・三年

光村教育館 中学硬筆完全指導

光村教育館

[HOME](#) [教科書購入のご案内](#) [お問い合わせ](#) [採用情報](#) [サイトマップ](#) [光村出版書籍のご案内](#)

光村チャンネル

[文字サイズ](#) [大](#) [小](#)

教科書・副読本
 デジタル教材
 一般書籍
 全国研究会情報
 光村コミュニティ
 シーズンイベントビュー
 会社案内

[ホーム](#) >
 [教科書のご案内](#) >
 [教科書クロニクル](#) >
 中学校園

教科書クロニクル 中学校園

	1年	2年	3年
昭和30年度版 (昭和30年～昭和33年使用) 主なできごと			
昭和34年度版 (昭和34年～昭和37年使用) 主なできごと			
昭和37年度版 (昭和37年～昭和40年使用) 主なできごと			
昭和41年度版 (昭和41年～昭和43年使用) 主なできごと			
昭和44年度版 (昭和44年～昭和46年使用) 主なできごと			
昭和47年度版 (昭和47年～昭和49年使用) 主なできごと			
昭和50年度版 (昭和50年～昭和52年使用) 主なできごと			
昭和53年度版			

光村ライブラリー
光村出版館蔵に収録された児童ある作品を厳選したノンフィクション。

平成24年度中学校教科書
発行済中学校用図録
教科書のこゝろ紹介

お問い合わせ
編集部へのご質問はこちらから